

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価計画

達成度(評価)

- A: 十分達成できている
- B: おおむね達成できている
- C: やや不十分である
- D: 不十分である

学校名	白石町立須古小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標の実現に向けて、職員が一丸となり、二部会を中心に保護者・地域に対しては「つながる」、児童に対しては「主体性」の二つをモットーに「チーム須古」として職員が一丸となって取り組むことで、アンケート13項目のうち昨年度よりさらに6項目で評価値が上がった。しかしながら、2項目については評価値が下がる結果となった。 ・コミュニティスクールの学校運営協議会と連携を深め、各種団体・地域・保護者と一体となり綿密に活動を計画し、実施することで地域を生かした体験活動を効果的に行うことができた。
2 学校教育目標	<p>正しく優しく元気よく 須古大好きな子どもの育成</p> <p>～学校・家庭・地域がつながるチーム須古小～</p>
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の研究を深め、自己を見つめ他者とより良く生きようとする児童の育成。 ・特別支援教育において、子どもの困り感に寄り添った指導を心がけ、専門機関や医療機関と連携した支援体制の工夫・改善に努め、一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行う。

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目		中間評価		最終評価		学校関係者評価				
評価項目	重点取組	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価			
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	B	「須古小スリーアップ作戦」の①②については、90%以上の教師が達成できたと考えている。③についても、「家庭学習がばり週間」を設定したり、自学を奨励したりしながら充実を図ることができた。 ・マイプランについて85%の教師が実践している。もう一度目当ての確認をして、90%以上をめざす。	A	「須古小スリーアップ作戦」の①②については、90%以上の教師が達成できたと考えている。③についても、100%の教師が達成できたとしている。家庭学習の質や量の向上を図ることができた。また、マイプランについても90%以上の教師が実践している。 ・今後も学力向上の重点取組を策定し、共通理解を図り、教職員個々の資質向上のための研修を行ってきたい。	A	・家庭学習は、やったか、やっていないかに終始するのではなく、子ども自身のやる気を持たせられるかが大事。やった後の宿題に対するリアクションが、保護者と先生方のアンケートの差に出ているのではない。 ・職員の数さんの人数も少なく、オール須古小学校で実践して学力向上に対応していたにたいしている。 ・学校の教育目標、校長先生の方針、職員の共通理解のもとに、特に小規模校でもありし指導が行き届いている。「学校便利」等がよく分かる。		
	◎地域を生かした体験活動の充実(愛郷心の育成)	○須古のよいところがわかり、伝えたいと思う児童の割合を85%以上にする。	A	・地域を生かした総合的な学習の時間、学校行事、学級活動での体験活動に取り組ませ、活動を通して地域の「人・もの・こと」に関わらせる。	A	「須古の良いところを知っている」と回答した児童の割合は、88%(A…64%、B…24%)ある。中間評価と比較し、児童の意識がややマイナスとなった。コロナ禍の影響で、地域との交流が制限されたこと、「須古祭り」等の中止もあり、須古の良さを再認識する機会が減ったことが要因であると考えられる。須古には、歴史と伝統、豊かな自然があり、地域の方々とはとも協力である。今後も工夫をしながら、地域の人材・特色や良さを生かした学習を充実させていきたい。	B	・コロナ禍の影響で十分な活動ができなかったと思われるが、今後も十分な体験学習ができるように期待したい。 ・コロナ禍による地域の交流が難しい中で、別内容での実践ができていように感じる。		
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○「自分のよさや友だちのよさが分かる」児童の割合を90%以上にする。 ○授業参観で道徳の授業を年1回以上行う。(ふれあい道徳)	A	・人権教育の視点に立った授業や実践を行う。 ・なかよし活動を充実させ、けやきカードも効果的に活用して児童の自己肯定感を高める。	A	「自分や友だちのよさがわかる」と回答した児童の割合は、91%(A…69%、B…15%)である。 ・縦割り班での活動(仲良し遊び・掃除)を6年生を中心に行い、異学年での交流がよくなっている。けやきカードの活用もでき、全校放送で紹介することで自己肯定感を高めている。 ・授業参観で道徳の授業を行い、保護者に公開できた。	A	「自分や友だちのよさがわかる」と回答した児童は、92%(A67%、B25%)である。けやきカードの活用や縦割り班活動での交流、各学級での認め合いなどにより、他者理解や自己肯定感を高めることができたと思われるが、C(6%)D(2%)の児童もおり、自分や友だちのよさに気づき大切にしていこうとする心を引き続き様々な場面で育てていきたい。 ・人権集会や平和集会を通して児童一人ひとりが、人権について考える場を作ることができた。 ・校内研究で道徳に取り組む、授業実践を行い、研修を深めることができた。	A	・学校と保護者との関係もよく、連携に努めておられるように思う。 ・人権教育への取り組みの継続や道徳の研究の成果があらわれている。今後も続けてほしい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「学校が楽しいと思う」という児童95%を目指す。 ○QUを年2回実施し、学校生活満足群の児童の割合を増やす。	A	・定期的なアンケートや心のチェックシートを実施し、児童の実態把握に努める。 ・定期的に共通理解の会を行い、全職員で、児童の実態を共有し、支援方法を探る。	A	「学校が楽しいと思う」と回答した児童の割合は、97%(A66%、B31%)である。 ・QU、いじめアンケート、心のチェックシートを実施した。いじめアンケートについては、事後の聞き取り、事業への対応、全職員での共通理解を行った。また、QUについては、夏季休業期間中に研修会を実施した。	A	「学校が楽しいと思う」と回答した児童の割合は、94%(A73%、B21%)であった。前回に比べ、A回答の児童の割合が増えていることはプラスとらえたい。一方、C(4%)、D(2%)と回答した児童があることを重く受け止め、CやDが0となるよう、あらゆる機会を通して実態把握に努め、子どもたちの心に寄り添ってきたい。 ・パルソングテスト及びQUの2回目を実施した。児童理解と今後の指導に生かしたい。また、12月24日の職員研修会で「いじめ問題の対応」についての研修機会を持つことができた。	A	・児童保護者のアンケート調査にて、CとD評価が見受けられる。今後も、CとDの一部児童への観察対応をお願いしたい。 ・教職員の回答と保護者の回答「十分そう思う」に30%以上の開きがある。学校側の取り組みをもっと保護者に伝え、認知・理解をさせていただく工夫が必要ではないだろうか。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒90%以上	A	・食への意識を高めるために、食育授業や健康チェック調査・保健指導を実施する。	A	・委員会の活動により献立の紹介や食の大切さを毎日放送した。準備や後片付けも時間内にできるようにできた。 ・毎日の体温の調査は100%行うことができていいる。体調不良を訴える児童は少なかった。	A	・好き嫌いをせずに楽しく給食を食べている児童が93%で食事の大切さが身に付いていると思われる。食育についての授業はできていないところがあるが、学級の取り扱いの時間の中で積極的に食育や保健・健康づくりの指導を行っている教職員が100%である。	A	・今後とも今の取り組みを継続してほしい。
	○運動習慣の定着化	○進んで運動を楽しむ児童85%以上を目指す。	A	・ジョギング・ウォーキング週間の実施、昼休みの外遊の奨励により、健康作りへの意識を向上させる。 ・委員会活動と運動し、全校で運動に取り組む機会を設ける	A	「体育の時間や休み時間など、運動に楽しく取り組んでいる。」と回答した児童の割合は、98%(A81%、B17%)である。 ・運動に制限がかかる中にも、授業の工夫等を行った。運動会等の行事や休み時間を委員会活動と運動しながら取り組みを進めてい必要がある。	A	「体育の時間や休み時間など、運動に楽しく取り組んでいる。」と回答した児童の割合は、97%(A82%、B15%)であった。 ・運動会やジョギング・ウォーキング週間における運動の機会を確保したことや各学級での体育授業の充実、スポーツチャレンジの実施などにより体力の向上が見られている。	A	・体育の時間、休み時間運動に取り組んでいる。元気な子どもが多くてよい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在職等時間の上限を遵守する。	A	・金曜日の定時退勤日を推進し、毎月第1金曜日と第3水曜日は全員退勤を奨励する。	A	・全職員の時間外勤務時間の平均35.2時間 ・夏季休業中に5日間、学校閉庁日を設定し、教職員が休暇を取得しやすい環境を整備した。また、金曜日以外に、独自の定時退勤日を設定させることで、仕事の効率化を図ることを促した。	A	・11月までの職員の時間外勤務時間は、34.8時間と、中間報告よりも短くなった。 ・職員会議や、連絡会の資料を前日に配ることで、伝達をスムーズにする共に、短時間で済ませた。また、事務の時間の確保に繋がった。	A	・効率化と指導の充実の両方が可能か、不安を感じる。 ・コロナ禍の中での教育活動において、多くの気づきや取り組みの見直しなど、今後の対応について学習する1年だったと思われる。この1年が基準となると思われるので、振り返りを行いながら、今後も十分な教育活動ができるようPTAとしても協力していきたい。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

評価項目	重点取組内容	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	
○特別支援教育の充実	○教師の専門性と意識の向上	○保護者や職員と連携を図りながら、子どもの特性に応じた支援を行っているという保護者の割合を90%以上にする。	A	・巡回相談の実施と具体的な個別指導の見直し。 ・ケース会議の開催と情報共有(研修会)	A	・困り感のある子どものために巡回相談や事務所相談を実施し、具体的な個別の指導について見直しを行った。教師のアンケートでも、100%であった。継続して相談をして個別指導の改善を図ってほしい。 ・定期的に困り感のある児童についての情報交換の場を持ち、支援について全職員が共通理解をして児童に対応している。	A	・困り感のある子どものために巡回相談や事務所相談を継続して実施し、具体的な個別の指導について見直しを行った。教師のアンケートでも、100%であった。しかし、「あまりそうは思わない」と答えた保護者が5%あり、この結果を厳しく受け止め、保護者と連携を更に深めながら児童の支援に当たってほしい。 ・子どもの困り感に寄り添い、特性に応じた支援について共通理解を図り支援をしていく。 ・保護者との連携を更に深めていけるよう、日々の連絡等を密にしたい。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、中間評価を取り入れることで、各項目に対して緊張感を高め、新たな実践へと繋げる努力をした結果、学力向上の実践でB評価だったが、最終評価では、Aになり、職員のマイプランへの意識の高まりを感じた。 ・他の評価項目については、年間を通して、A評価で、職員の努力が子どもたちの意識の向上にも繋がっていると考える。しかし、「より良い学校にするアンケートの結果」の中で保護者の評価が低いところがあるので、来年度は、学習指導や生徒指導について、分かりやすく説明すると共に、密に連絡を取りあって、子どもたちの指導に当たりたいと考える。 ・働き方改革では、仕事の優先順位を考え効率化を図る努力を進めてきた。来年度も、各行事の振り返りを丁寧に行い、業務改善に繋げていきたい。
----------------	--